

目指せ、ごみ0社会!



家庭から出されるごみの中には、再利用・再資源化できるものが、まだまだたくさんまざっています。貴重な資源を無駄に捨てることは、数少ない埋め立て地の寿命を縮めるだけではなく、ごみ処理費用の増大や自然環境の悪化など、私たち自身にそのままはね返ってくるのです。そこで今回は、地域での取り組みを通じて、ごみ減量とリサイクルについて考えてみました。

集団資源回収に取り組む北の沢小学校PTAの皆さん

回収は年一回。回収板を活用するほか、メンバーが近所の方々に直接声を掛けるなど幅広くPRします。こうして集められた綿製品は、毎年ダンボール十箱分以上にもなるそうです。

「回収に協力しよう」と、不要になった衣類やタオルを一年もの間、自宅に保管し続けることは大変なこと。それでも毎年、たくさんのご協力が得られるのはありがたいです。

ライラックは、藻岩下連合町内会の女性部有志十九人で構成。各家庭で不要になったシーツやタオルなどの綿製品を回収し、区内の高齢者施設に寄付する活動を十五年以上も続けています。寄付された綿製品は、熱消毒された後、便などで汚れた体をふくのに使われています。

「ごみ問題で一番大切なことは、ごみの発生を抑えること。それでも出てしまったごみは安易に捨てず、再利用できないか、もう一度よく考えてほしい」と語るのは、リサイクル団体「ライラック」代表の大西きよさんです。



捨てる前に
もう一度よく考えて

ライラック

(藻岩下地区)



家庭で不要となった綿製品が新たな資源として生まれ変わります(3月4日、藻岩下地区会館)

ね」と語る大西さん。

「資源を無駄にしない」という考えが、大西さんたちの活動を通じて地域にもすっかりと根付いているようです。

回収された綿製品は、メンバーたちの手で三十cm四方の形に整えられます。

「量が多く、肩や腰が痛くなることもありませんが、実際に使う形にして寄付したほうが受け取る側も使いやすいと思つて...」そう語る大西さんの言葉から、地域の皆さんの善意が詰まったこの資源を少しでも有効に活用してもらいたいという思いが伝わります。

ごみ減量メニュー

- ①ごみを発生源で断つ
 - ごみになるものを買ったり、もったりしない
- ②ごみを減らす
 - 包装を簡素に詰め替え容器を購入する
- ③繰り返し使う
 - ものを修理したり、必要としている人に譲ったりする
- ④再生資源に戻す
 - 紙、バックなどの店頭回収や集団資源回収に協力する